

## 「セゴヴィアを聽いて」

セゴヴィア來朝の噂ある時、彼のレコードは先づ彼に先立つて我々を訪れた。世界一流ギタリストの藝術に接する事は殆んど皆無である我國にとつてそれは大きなよろこびである。

本社は之に際して、標題の如く、その感想を二、三のギタリストに就いて乞ふた處、幸ひ稿を寄せられたので、此處に掲載する次第である。玉稿を賜つた各位に厚く御禮を申述べ。(順位、到着順)

オルケストル「エトワール」

河 合 博 氏

師タルレガの死んだ跡を受けてギター界に活動して居るリヨベツト、ブホル、セゴヴィアの演奏は既に久しく聞き度いものと懼れて居たがヴィクターが此の一月發賣したレコードに由つて其の希望の一端は充たされた。彼等一流ギター大家の演奏が斯うしてレコードされた事は色々な意味から喜ばしい事である。曲はモツアルトの主題に由る變奏曲(ソル、作品第九番)とセゴヴィア自身の編曲に成るバツハのガヴオツトである。ソルを研究しバツハの編曲を通じてギターの現代化を試みたセゴヴィアが此の二曲を選んだのは自然であるが出來得るならば他の曲の演奏も聞き度いものである。

近着の「ギターの友」誌(一九二八年第十一・十二號)にマックス・ダネクと言ふ人がセゴヴィアの批評を書き「技巧家」だと言つて居る。一体音樂家を技巧家だと評する事は其の音樂家に致命傷を與へる事になる傾きがあらうが、マックス・ダネクと雖もセゴヴィアの第一流ギタリストとしての聲名に關はる様な事は勿論言つて居ない。ダネクはセゴヴィアのバツハ編曲を大變賞めて居る。

勿論セゴヴィアは現今第一流の大家であり、レコードを通じて其の光彩に富む演奏に接した我々は多くのものを彼から學ぶ事が出来る。

然しそれにしても僥はれるのはタルレガの偉大さである。

——一九二九・一・二二——

ヴンクタブ賣出しのセゴヴ非ア演奏のレコードを聞いた。出た時直ぐきゝたかつたのだが手に入れる機会がなかつたところ友人がボーナスで買つたと云ふことを聞いて正月一日の朝おしかけたが奥さん（此の友人は二、三年前に結婚したのだが未だ新婚の如く仲がよい。）も未だ充分お化粧も出来てない様だし、新年早々に貧乏人の襲來は餘り縁ギのよいものでもないだらうと思つて何度もきゝたかつたが三度きいた丈けで歸つて來た。が、やつぱし聞いてレコードは有難いと改めて感心をし、それにつけても何事によらず當代では金がほしいと思つた。僕は、寫眞でタルレガを見、セゴヴ非アを見、ビツクフオードを見たが三人の音は皆違ふ、特性のある音を出すのを現してゐる様に思はれてならなかつた。そして、ビツクフオード夫人のレコード（ザーヴァ、アートレコードとか書いてあつてあはてて買ひましたが随分高かつたのでうらめしいものですが）を聞いてから、ますますセゴヴ非アをきゝたかつた。スペイン仕込のギタリストはギターの持ち方が如何にもギター曲を弾いてる様に見え、他の國々ではラウテ見たいにギターを抱へてゐる様に思はれる。ともかくビツクフオードとセゴヴ非アにはギターの持ち方そのものに可なりの隔りがあり、従つて音調に於ても大分異ふ様だ。ビツクフオード夫人はやはり優しいところがある。餘りブリツヂ近くの音を出さないがセゴヴ非アは大分ブリツヂに近いところを弾く時が度々ある。日本のギタリストはビツクフオード夫人のレコードのためか音の系統は夫人の方に近い様だ。（ギターの音性はギタリストの體質がギターの持ち方を決定する一つの條件であるから日本人には又その個人の特性ある音調を出すのであらうが）セゴヴ非アのスラーは非常に美しい、スケールの音の平均、正確なタツチ、等を僕は驚きながらきいた。けれども、ヴンクタブ社の註文の爲かも知れないが二曲とも未だギター曲の粹ぢやない。ソル等は未だまだピアノ臭い味が滲山残つてゐる。曲と云へば、ビツクフオード夫人のレコードもあまりよいものは吹込まれてゐない。ドチラも、だからギター愛好者には物足らないものだらうと思ふ（音量の點は洋行をしないと見當がつかない。この點レコードは困つ

たものだ)をしてつくづく思ふ。何故セゴヴ井アは自作のものや、タルレガ  
ブオール、ガルシア、ジュリアーニ、アグアド、リヨベツト、トルロバ、  
テウリーナ、フアリアの傑作を吹込んで呉れないのか。

彼の恰好でこそタルレガのプレリウドも物と言ふかも知れない。

ビツクフオード夫人のレコードはギターを樂々とピアノの如く弾く様  
にしきや聞べない。無論、フレットはギター音楽をピアノ音楽に似たものを  
作らすのは仕方ないであらうが、ギター曲は、スラア、グリツサンド、シン  
グルトーンの表情、絃の色の美しさ、それからフォルティシモの難しさを  
(伴奏の時特に然り)考慮したものであつてほしい。(之等は、マンドリンのト  
レモロ、ハワイアンギターのグツサンドの如く、特性にして缺陷なのである  
から使用方法は甚だ難かしいには相違ないが。)とにかく、ギター愛好者はセ  
ゴヴ井アの第一信を得た。洋行のできないものはあのレコードをみんな買ふ  
べしてある。すると、ヴ井クター社は、又、新譜を發賣するであらう。そし  
てセゴヴ井アより第二信第三信といふものを吹き込んで貰ふ様にしたいもの  
だ。

——一九二九・一・二二——

#### 大 河 原 義 衛 氏

世界のギター界に、否むしろ世界の樂界に異常のセンセーションを撒き散  
してゐるセゴヴ井アのギターが、吾々の手近で聽ける事は、吾々にとつて  
どの位いしあわせてあるかわからない、私は昨年春頃何んでもセゴヴ井ア  
がヴ井クターへ吹込んだ事を聽いて一日も早く日本へも來る事を望んでゐた  
が、昨年おしつまつてから、ヴ井クター新譜にセゴヴ井アの名を見て、取  
るものも取りあへず——全く戀人に會ひにでも行く様に、胸を高ならせ乍ら  
聽きに行つたものであつた。私は先づソルの「主題と變想曲」をかけ、次に  
バツハの「ガボツ」を聽いた。二曲共、古典的作品だが、第一に感じた事は  
セゴヴ井ア自身から發散する音樂の事である、と云ふのは、モツアルトの主  
題を扱つたソルのそれを聽くに及んで、ソルの大藝術家である事をセゴヴ井  
アによつて教へられた事である、ソルは單に情操の作家である様に思つてゐ  
た私はセゴヴ井アの奏であるソルを聞き、尙彼れのかゝる形式的作品を聽い

ては、彼が大作曲家であり、大藝術家であつたと云ひ得ると思ふ。ソルのあのシンプルな旋律と形式を、セゴビヤが、かくも明確に、裏にひそむ色彩を、ろかんなく披瀝してゐる事は、彼の多分な音楽的才能を明らかにするものである。バツハのがボツトは知られた曲であり、あの親しみ深い旋律を従横に弾きまくるセゴビヤを聴けば彼が立派なヴィルティオーゾである事を更に思ふ。私達はヴ非オリンに於ては、しばしば大ヴ非オリニストを聴く事を得るが、ギターを聴く場合は、余りにもめぐまれ過なさ過る。そしてギターを聴く場合常に、今自分はギターを聞いてゐるのだ、と云ふ概念から離れる事が出来ない、然しセゴヴ非ヤを聴くに及んで初めてギターを通して音楽を聴く事が出来る。いさゝか脱線であるかも知れないが私はかく思ふ、楽器は單に音楽を便宜上傳へるものに過ぎない。然し各楽器によつて同一曲が種々變形される事は勿論であるが、終局に於て、曲そのものを聴いてゐるのであるから、眞に立派な曲の解釋であり、第二に楽器の技巧である様に思ふ。之は極めてわかり切つた事であつて常にかく行はれ難い事である、現在本邦のプレクトラム界を見ても然りと云ひたい、少くとも音楽そのものをつかむ事は努めねばならぬと思ふ。

さて次にセゴヴ非ヤの技巧に就いて云はねばならないが、私し如きものが彼の技巧を兎や角と云ふ事は余りに潜越てはあるが、單に私しの感じたまゝを書き並べさせて頂き度い。セゴビヤの技巧上で感じさせられた事は、各和絃の平均させられた音である。これこそギターの最も困難な技巧である。右手の各指の平均した力とタッチこれはなかなか得られ難い、然しセゴヴ非ヤに於てこれは完成されてゐる。次に非常に速いアルペジオ、これは實にうまいものである。又左手のみによる速やかなスケール、美しいグリッサンド等彼れのこの絶大な技巧を聴いてギターの輝やかな未来を思はずにはゐられない。私は彼れを聴いて左手は勿論であるが右手を深く研究する必要のある事を思つた。セゴヴ非ヤの寫眞を見て彼の右手が絃に直角に近く傾いてゐるのを見ても、それに就いては色々と議論も有るであらうが、ギター奏法上右手は大いに研究する必要のある事を更に深く感じた。



最向にセゴヴ非ヤの音色についてであるが、レコードを通じての彼れの音は決して美しくない、これは恐らくレコードによる音の變化であると思ふ。(彼れの樂器に使用してゐる線は多分ガットであるらしいが)吾々ギター愛好者は長年立派なギターの演奏を聴く事にうえてゐたが終にセゴヴ非ヤの、レコードではあるが聴く事を得たのは非常な嬉こびである。尙慾を云へば西班牙の近代樂作者の筆に成る例へば、トルローバだとか、チュリーナ等の曲を聴くセゴヴ非ヤを聴き度いものである。ビクターあたりでも、もつとギター獨奏をどんどん出したらと思ふのであるが、——然し世界にセゴヴ非ヤがギターをひつさげて叫んでゐる言葉は必ずそうした、吾々の希ひをもかなえてくれる様に思へてならない。

セゴヴ非ヤの樂曲に對する解釋と云ひ、技功と云ひ唯だ感歎の外ないが、彼れには期待すべき未來がある、私は彼れを聴いて、若さと、力と、熱とを感ずる事が出来る、然し尙圓熟したセゴヴ非ヤを再び聴ける事を希んで止まない。

#### 池 上 富 久 一 郎 氏

セゴヴィヤの名を如何に永く待焦れて居た事でせう。ビクターの一月譜にその名を見出した時の欣びは全く例へ様もないものでした。幼時別れた兄に廻り會ふ様な心の時めきを感じ乍ら私はそのレコード面へ針をおろしました。曲はソルの作品第九番「モツアルトの主題による變奏曲」です。私はシムロック版の原作より持つて居ないのが残念でした、イントロダクションのないのが一寸物淋しく思ひましたが、そのタッチには既に膝を奪はれました。それにギターが是程多様な色彩を出すとは考へませんでした、美しき重音の連り、夢見る様なヴィブラート、ソステスートの余韻の妙、眞珠の流れを思はせる急速なテンポ、胸のすく様なスタッカートの明快さ、凡ては人技とは思はれません。此の變奏部は彼によつて原作ソルのものに比して數倍効果あるものとされて居ります、バッハの「ガヴオツト」に於ても演奏家及作家としての彼の手腕を更に強くみせられました。

私は凡てを聴き終つた時第一に敬服した事は彼の演奏家としての眞面目さと曲に對する解釋の素晴しさでした。

偉大なるセゴヴィア!! 彼によつてギターの眞價はさらに高められました。ソルもタルレガも地下にて彼の活躍に満足して居る事でせう。セゴヴィア來朝の日は何時の事でせう? 私は本邦ギター界の爲にその實現の一日も早からん事を望むでやみません、本當に吾ギター界は淋し過ぎますからね。

同人 宮 田 政 夫

權威ある諸氏の御感想で充分でありますが、四人では数が悪いと云ふので、僣越ながら御仲間入りをさせて頂く事になりました。

セゴヴィアは此のソルの「主題と變奏曲」に於いて、ロココの華麗を豊かに表して居ります。

その演奏は、あくまで、エレガンドであります。そして技巧的には變化があります。旋律が伴奏より、はつきりと浮びて生きて居る事は、誰れもが、自身ギター演奏に當つて氣付く事でありながら、なかなか明快には出來ないものであります。セゴヴィアのそれは全く自然で、そして至極輕快です。

ガヴオットでは、謹嚴なバツハに、或る潤ひを含ませて私共に聽かして呉れる、私共をして、難解なバツハに親しまして呉れますが、私にはあまり面白いものには思へません。

彼の指法はシュワルツライフリンゲンに従へば、曲の解釋に或るヒントを與へて居るそうですが、此の指法と、ハンス・ブリューゲルが與へた。同じ曲の指法とを比較する事はそれが、兩方とも、原作の本長調であればあるだけ面白い事でせう。(ブリューゲルのは、原作通りラウテであつて嬰ハ、及の番外絃を持つに反し、セゴヴィアのはギターであるけれども) セゴヴィアは、歐米各國の演奏會に於て、いつもそのレパートリーにバツハのものを加えて居ます。その中には勿論、ラウテに對するオリジナルと共に編曲も(ギターで弾く事が既に編曲であるが)まちつては居ますが、ギターとは縁遠く思はれる大バツハを、彼を通じ、彼の樂器を通じて聽けることは大きに喜ばしき事であります。ロイド眼鏡をかけた彼、ボヘミアン・ネクタイを結むだ彼、唇の厚い醇厚な顔をした彼、セゴヴィアよ! 多幸なれ多弾なれ!

一九二九・一・二九